

老健にいがた

2024. 8 Vol.55

第55号



しんあい園（詳細4ページ）
津波想定避難訓練の様子

目次

巻頭言	1	委員会紹介	8~10
特集:能登半島地震での津波避難の対応と課題	2~4	こんなことやってます!!~会員施設の取り組み~	11~14
研修会報告	5	みんなの広場	15
協会だより	6~7		

巻頭言

ご挨拶

新潟県介護老人保健施設協会
会長 長谷川 まこと



日頃より新潟県介護老人保健施設協会の皆様には大変お世話になっております。私は令和6年4月より会長職を仰せつかりました。重責ではありますが皆様方のお力を借りながら勤めを果たして行きたいと思っております。

さて、今年度は6年に一回ある、介護報酬、障害福祉等報酬、診療報酬のトリプル改定の年となりました（以下全老健の機関誌を参考に記します）。介護報酬に関しては1.59%アップでこれまでで2番目に高い改定率であり、診療報酬率の0.88%を上回るものとなりました。この内訳としては、介護職員の処遇改善分がプラス0.98%、介護職員以外の処遇改善分がプラス0.61%のことです。

介護業界においては光熱水費や食材料費等の物価高騰の影響もあり経営状況が厳しく、さらに他の業界との賃金格差による職員の離職、転職が後を絶たないと言います。今回の報酬改定では、このような当業界の窮状に対して、限られた財源の中でも当局がある程度対応してくれたものと思われま

す。内容は多岐にわたりざっと眺めただけでは理解できないことも多いですが、老健施設に関する主な改定点としては1) 処遇改善関連のいくつかの加算が「介護職員等処遇改善加算」に一本化されること、2) 老健本体の基本報酬の引き上げと施設類型指標の見直し、3) 協力医療機関との連携体制構築が必須となること（経過措置あり）、4) かかりつけ医連携薬剤調整加算の見直し、5) 通所リハビリの基本報酬体系の見直し、等があるとのこと。これらは同時改定を機に医療と介護の連携を一層強化する（3や4）、という意図が汲み取れ、また人材確保・処遇改善（1）にもポイントを置いたものと言えそうです。

これらが各老健施設の運営の大きな追い風になるというほど甘くは全くないでしょうが、改定内容を吟味・理解してそれぞれの施設のプラスになるよう生かす、場合によっては目指す方向付けの指標にする、といったことが求められると思います。

老健が誕生して35年、介護保険がスタートして24年、県老健発足後34年です。国内事情が変わり、高齢者を支える、仕組み・施設・組織も多様化してきました。この間、老健自体も変わり（類型など）多様化してきた面もあるかと思えます。県内の老健は93施設、現在協会加入施設数は85施設です。一時98施設ほどの加入施設があったかと思えますが多少減少傾向です。それぞれの設置状況、地域の特性等バックグラウンドが異なるにしても、県老健としては、少子高齢化社会を支える大きな柱として、それぞれの施設の個性を認めつつ、骨組みの共通する、同じ課題を持つ仲間としてまとまって進んで行きたいと思えます。

なお、私の所属はしんあい園（新潟市西区）ですが県老健の事務局は三川しんあい園（東蒲原郡阿賀町）に置きます。今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

能登半島地震での津波避難の対応と課題

介護老人保健施設しんあい園

看護係長 鶴田修一

はじめに

令和6年1月1日16時10分に発生した能登半島地震により、被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今回の地震は石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6で、新潟県内では最大震度6弱を観測しました。また、16時22分には津波警報が発令され、新潟市では16時56分に津波の第一波(30cm)が到達しております。

当施設は海岸より近く、ハザードマップでも津波被害エリア内にあり、今回の警報を受け垂直避難誘導を実施したため、その際の様子をご紹介します。

施設概況

介護老人保健施設 しんあい園	新潟市西区上新栄町1丁目1番1号 2階建築 30年 海岸より500m 松林の防風林を越えた海拔5mの立地	
入所者数	1階	2階
91名	46名	45名
障害高齢者の日常生活自立度	A2:17 B1:9 B2:5 C1:3 C2:12	-
認知症高齢者の日常生活自立度	Ⅱa:1 Ⅱb:4 Ⅲa:8 Ⅳ:33	-

令和6年1月1日現在

地震発生直後

新潟市西区は震度5強を観測し、各所で地盤の液状化現象で家屋の倒壊や傾き、地面のゆがみや陥没、ライフラインが寸断・停止となり、避難を余儀なくされた方々が多くおられました。

当施設は地震発生時、1階46名・2階45名の入所者と職員8名がおり、職員はすぐに利用者の安否と建物被害の状況確認を行いました。2階職員ステーション内の棚にあった書類や居室の掛け時計の落下や、壁にひびが入ったりするなどの被害はありましたが、幸い人的被害はなく、建物に大きな損壊もありませんでした。

避難開始

さて問題はここからです。日本海側に津波警報が発令し、最大3mの津波が予想され、避難指示が出ていることをテレビの速報で知りました。

当施設の防災マニュアルでは、有事の際、隣接病院（新潟信愛病院）から指示や連絡が入ることになっているのですが、隣接病院も複数の病棟の入院患者様を同時に避難誘導していたため、電話も繋がらずしばらくの間は指示がどこからもありませんでした。

当施設周辺地域の一時避難場所は高台にある寺尾中央公園なのですが、当施設から避難場所へ

の最短ルートでも300mと利用者様を誘導するには遠く、交通量の多い道路を横断する必要もあり、避難場所までの誘導は現実的に困難な状況でした。

当時、2階は職員よりインフルエンザ感染者が発生しており、利用者様への感染がないか要観察中の状況でした。感染拡大防止の為、利用者様及び職員の他の階への移動を極力控えるように対応していたため、感染拡大を心配する声もありましたが、その場にいた職員で最善の対策を検討し、1階の利用者様を2階に誘導しよう判断、地震発生15分後頃から垂直避難を実施しました。

まず独歩可能な利用者様から非常階段を使い避難を始めました。次に車椅子使用の方、寝たきりの方約20名の避難を行いました。当時勤務されていた外部の清掃職員の協力も得て利用者様1名に対し職員2～6名で毛布搬送を行い、中にはおんぶをして搬送する事もありました。このように利用者様の状態に合わせ搬送方法を調整しながら、1階利用者様が2階に避難を完了したのは17時20分頃でした（避難開始から55分）。

津波がいつ襲いかかるかもしれない恐怖と助けなくてはいけないという責任感で、当時勤務していた職員は必死で我を忘れて避難行動をとりました。

職員の体力は過度に消耗していましたが、避難誘導中に転倒等二次的な怪我をされる方もおらず46名全員無事に垂直避難を行うことができました。

避難完了～夜間

夕方2階から外を眺めると、周辺には津波の影響がないことがわかりました。しかし海岸沿いの住民の方々は、徒歩や車で高台や遠くの場所へ避難されていたそうです。

少し休息を取れたのも束の間、次は夕食の準備です。配膳用エレベーターが停止し使用できないため、1階から2階へ人力で90名分の御膳を運ぶ必要がありました。非常事態であり何をするにも時間は掛かり、とにかく人手が欲しい状況でした。

その後、時間の経過とともに、施設より要請を受け出勤した職員、防災マニュアル（震度6弱以上で召集）に従い自主的に出勤した職員、心配になり出勤した職員ら合計10名の職員が応援に駆けつけてくれました。

夕食後は排泄援助と就寝の準備です。緊急避難であり当日は、床で一晩過ごしていただく予定でしたが、①津波3mに対し2階では十分な高さが確保できていないこと ②感染症リスク軽減のため ③約30名の床でのオムツ交換は職員の腰への負担が著しいこと ④布団だけを運ぶよりベッドごと運んだ方が、職員の負担が少ない等の理由から、1階利用者様の全てのベッドをエレベーターで2階に上げることにしました。（エレベーターの使用は、途中で停止する可能性があるため職員は絶対に乗らないことを周知）

非常時の対応として、廊下や食堂にベッドを並べ、一晩休んでいただくこととなりましたが、利用者様と職員の協力もありなんとか過ごせる環境を整えることができました。

その後（スクリーンを用いて）排泄の援助等を行い、利用者様がお休みになられたのは23時を過ぎていました。

翌朝～避難解除

2階フロアに普段の倍の利用者様がおられるため、食事や排泄の援助等の最低限の看護・介護の対応となり、食事については1階と2階の提供時間をずらし対応するなど調整が必要でした。

その後、津波警報が解除されたことに伴い、2階に避難されていた利用者様に1階に移動してい

ただきました。ベッドの移動も含め、全員が元の居室に戻るまでに2時間程掛かりました。地震や津波が収まってきたことや元の生活環境に戻れたことで、利用者様は皆安堵の表情でした。

津波想定避難訓練

当施設と隣接病院で構成される防災安全対策委員会では、元日に発生した地震について、各部署が行った避難行動の反省や今後の意見を集約しました。そこで改めて避難の訓練が必要と判断され、3月19日隣接病院との合同で津波想定避難訓練を実施することになりました。訓練の内容は、日中に高さ5m級の大津波警報が発令されたと想定し、前回同様の方法で垂直避難誘導を行うものでした。

1階の独歩可能な一部の利用者様には訓練に参加していただき、寝たきり全介助の方は、職員が模擬者（6名）となり参加、隣接病院から7名の職員が応援に駆けつけ、当施設職員も含め13名で行いました。独歩可能な方は、そのまま2階へ避難していただき、模擬者は毛布搬送にて、1名につき職員4～6名で対応、地震当日と同様に階段を利用し搬送しました。

訓練に要した時間は20分弱でしたが、実際に46名全員を2階に避難した場合を想定すると、計算上約50分の時間が必要だと考えられます。今回は訓練でありスムーズに行動できましたが、実際の避難となると職員の人数も限られ、さらに時間を要すると思われます。

今回はリーダー役として参加しましたが、ご高齢の方を2階に避難させることはとても労力がいると実感いたしました。

おわりに

今回、能登半島地震による津波被害はなく幸いでしたが、津波警報通りの高さで浸水被害があったらと想定すると、1時間以内でも避難は難しく、さらに職員の応援も見込めないため、とても不安になります。

今後に備え、より一層災害時の対応について真剣に考え行動し取り組んでいきたいと思えます。また、今回の地震を通して日頃から防災を意識して、避難行動を迅速に実施できるよう、避難指示をスリム化し分かりやすい表現にするなどの対策が必要だと思いました。

現在、業務継続計画（BCP）の周知・シミュレーション・見直しを進めているところではありますが、計画に沿って実践していけるよう取り組んでいきたいと思いました。



津波想定避難訓練の様子

研修会報告

ノーリフティングケアマネジメント研修会

午前の部は「ノーリフティングケアとこれからの介護大切なこと」をテーマに一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワークしももとよしこ下元佳子氏よりご講義いただきました。

腰痛は日本の業務上における疾病発生状況の上位であり業種別では製造業や運搬業、建設業を抜き保健・衛生業が

1位となっています。これは1970年代の腰痛予防における指針が医療や介護の属する保健・衛生業は含まれていなかったことが影響したようです。その後2013年の新指針では医療や介護の分野へも拡大されましたが他業種が減少傾向の中、未だ増加が続いています。

リスクマネジメントは腰痛のリスクがどの場面で起きているのかを抽出し改善方法を検討・実施・見直し・改善をくり返すことでリスクの軽減につながります。そしてノーリフティングは以下の効果が挙げられます。

職 員…身体に負担のかかる業務の減少、安全な労働、腰痛や疲労感の減少、ケアの明確化・誰もが実践できるケアの効果。

対象者…拘縮や褥瘡・創傷などの減少、自立支援が進む効果。

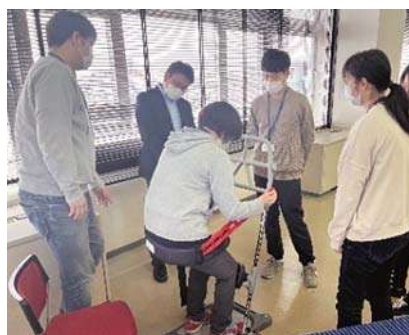
組 織…身体的問題での離職の減少・求人の増加、業務の効率化が進み生産性の向上、対象者のトラブルが減少し出費が減少、ケアの標準化が図れる効果。

それぞれの立場から役割を理解し、より良いサービスを提供して行くための手段の一つになります。医療や福祉の現場から腰痛をなくす取り組み、職員に負担のないケア、そのためのリスクマネジメントの重要性についてとても分かりやすくお話をいただきました。

午後の部では「考えよう！語ろう！これからの介護」をテーマにパネルディスカッションが行われました。コメンテーターに下元氏、パネリストに新潟県福祉保健部高齢福祉保健課介護人材確保係 係長さいとうたかゆき 齋藤孝之氏、長岡介護福祉専門学校あゆみ校長 おおだいらかずえ 大平和枝氏、関川愛広苑ケア統括部長作業療法士くどうりゅうこ 工藤柳子氏をお迎えし、安心安全に働ける職場・安心安全に利用できる施設になるためにそれぞれの立場よりお話しいただきました。参加者からも様々な質問があり活発なディスカッションとなりました。

また講義の他に福祉用具の体験会も行われました。参加者自ら実際に用具を使用し介助や操作を体験することで、介助方法について実用性や有効性の発見、多くの学びが持てたのではないのでしょうか。

日 時：令和6年2月24日（土）
会 場：新潟ユニゾンプラザ
参加施設：14施設
参加人数：38名



～参加者の声～

- ・現場にノーリフティングケアを浸透させることの難しさを実感していたため、組織全体で進める大切さを学ぶことができた。
- ・移乗方法について一人ひとりがケアプランに入れていくのは職員の評価にもなり良いと思った。
- ・実際にリフトは未使用だが、腰痛がある職員もいるため検討したい。



令和5年度 ノーリフティングケアマネジメント研修会

ノーリフティングケアマネジメントの手法や福祉用具を活用した新しい介護・リハビリテーションを学び、腰痛予防対策を目的として令和6年2月(前期) オンデマンド配信、2月24日土曜日(後期) 新潟ユニゾンプラザを会場として、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク(代表理事) しももとよしこ 下元佳子氏を講師にお招きし「ノーリフティングケアとこれからの介護 大切なこと」と題し、ご講義をいただきました。午後からはパネルディスカッションも行われました。当日は14施設38名の方が参加されました。

ノーリフティングの必要性・職員の腰痛問題・福祉用具の紹介と実際の事例もあり、参加者にとっては現場に持ち帰り実践出来る可能性を導いた内容であり、また施設全体で考えなければいけない事を再確認出来た研修会となりました。

令和5年度 事務長会議(介護報酬改定)

事務長会主催の事務長会議が令和6年3月にWeb配信で開催されました。県福祉保健部高齢福祉保健課介護サービス係板垣氏から「令和6年度介護報酬改定」・同じく介護人材確保係齋藤氏から「介護人材確保の現状と新潟県の取組」、また国保・福祉指導課介護指導班本間氏より「運営指導における指摘事項」についてそれぞれ解説をいただきました。

参加者様より、「新興感染症発生時の対応を行う医療機関との連携、協力医療機関との定期的な会議の実施などの医療・介護の連携の必要性、また介護職員の処遇改善に伴い生産性向上に資する取り組みなど、施設としての課題となる内容でした。」

との感想をいただきました。

令和5年度臨時総会 開催

令和5年度 新潟県介護老人保健施設協会臨時総会が新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、令和6年3月21日にリモート形式で開催されました。総会時会員数88名のうち、書面表決書をご提出いただきました会員77名にて、定足数を満たしたことから本総会は成立いたしました。

第1号議案 令和6年度事業計画(案)について

第2号議案 令和6年度収支予算(案)について

第3号議案 新潟県介護老人保健施設協会役員を選任について

それぞれ賛成多数により原案のとおり議決されました。

新潟県介護老人保健施設協会 役員(任期 令和6年4月1日~令和8年3月31日)

役職名	役員氏名	施設名	役職名	役員氏名	施設名
会長	長谷川 まこと	し ん あ い 園	理事	戸 澤 和 夫	三 面 の 里
副会長	松 田 由紀夫	ケアポートすなやま	監事	石 田 央	越 南 苑
副会長	荒 川 太 郎	や す ら ぎ 園	監事	田 中 弘	楽 山 苑
理事	佐 野 英 孝	常 盤 園			

令和6年度通常総会 開催

令和6年度 新潟県介護老人保健施設協会通常総会が今回も新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、令和6年5月30日にリモート形式で開催されました。総会時会員数85名のうち、出席者6名、委任状をご提出いただきました会員66名にて、定足数を満たしたことから本総会は成立いたしました。

第1号議案 令和5年度事業報告（案）について

第2号議案 令和5年度収支決算（案）について

それぞれ賛成多数により原案のとおり議決されました。

令和6年度事業計画

1 会 議

(1) 通常総会 規約第11条の規定に基づき、年1回開催する。

(2) 役員会 必要に応じて開催する。

2 委員会

(1) 事務長会委員会 (2) 学術研修委員会

(3) 広報委員会 (4) トラブル防止検討委員会

3 施設運営アンケートの実施

介護報酬改定等のアンケートを必要に応じて実施する。

4 研修事業

(1) 事務長会委員会 事務長会議（仮）

(2) 学術研修委員会 人材育成研修会（仮）

ノーリフティングマネジメント研修会（仮）

(3) トラブル防止検討委員会

事故・トラブルの未然防止に向けた活動の一環として、ひやり・はっと事故防止のアンケート調査・集計

身体拘束研修会（仮）

5 機関誌の発行 広報委員会

機関誌「老健にいがた」第55号・第56号を発行する。

6 令和6年度新潟県介護老人保健施設大会

令和6年度新潟県介護老人保健施設大会は中止といたしました。



令和6年11月14日（木）～15日（金）まで
長良川国際会場にて開催



ROKENくんの信長・濃姫バージョン

委員会紹介

任期 令和6年4月1日～令和8年3月31日

各委員長に抱負を伺いました

【事務長会委員会】

委員長 いっぷく 事務長 五十嵐 信行

今年度より委員長を務めさせていただくことになりました。五十嵐信行と申します。微力ではございますが新潟県の会員施設のお役に立てるように尽力してまいりますのでご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和6年4月に介護報酬の改定が行われ、各施設では対応に追われているのではないのでしょうか。運営基準や解釈通知、Q&A等で確認を行っても理解できないところがたくさんあると存じます。そのような所を今年度も新潟県の担当者より講義を予定としております。多くの会員施設よりご参加いただき施設運営の役に立てていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

	施設名	氏名
担当理事(会長)	しんあい園	長谷川 まこと
委員長	いっぷく	五十嵐 信行
委員	アピラ大形	中村 久美子
	くびきの	田原 智
	グリーンヒル与板	山本 陽平
	やすらぎ園	高橋 宜良

【トラブル防止検討委員会】

委員長 三川しんあい園 堀 一二美

毎年恒例の事故・トラブルに関するアンケート調査にご協力頂きありがとうございます。また、今年度も調査のご協力を是非ともお願い致します。今年は感染症の影響を受けずにトラブル防止検討委員会主催の研修会を4年ぶりに行う予定でおります。委員会の中では身体拘束に関する問題等の講演をと検討している所ではありますが、会員の皆さまのご希望がございましたら、事務局あてにご一報頂ければ幸いです。

今年度は委員のメンバーがほぼ入れ替わりましたが、未だに一堂に会することが出来ず活発な意見交換をしていない現状がございます。しかしながら、研修会を開催するにあたり委員全員が集まり意見交換し結束力を高めたいと思います。そのことが委員会を発展させ、会員の皆さまのお役に立てる一歩だと考えております。

今後とも、ご協力の程宜しくお願い致します。

	施設名	氏名
担当理事(会長)	しんあい園	長谷川 まこと
担当理事	三面の里	戸澤 和夫
委員長	三川しんあい園	堀 一二美
委員	越南苑	千喜良 由美子
	そよかぜ 楽部	佐藤 秀樹
	槇の里	齋藤 正範
	みずき苑	美濃 恵介
	やまぼうし	樽木 麻見

[学術研修委員会]

A班委員長 アビラ大形 眞柄 彰人

前年度に引き続き、学術研修委員会A班（新潟・下越地区）の委員長を務めさせて頂く事になりました、アビラ大形の眞柄彰人と申します。新型コロナが5類に移行され、世間の風潮も変化し、様々な事が緩和されました。前年度のアフターコロナ研修会の中で、講師より『決してコロナウィルスが変わった訳では無く、国の制度や判断が変わっただけです。』とのお話もあり、まだまだ気が抜けない日々が続いております。今年度は介護報酬の改定もある中、感染対策しながらの業務の継続、行事や家族の面会の再開等、皆様の大変な努力と工夫があったかと思えます。お疲れ様です。昨年度より、会場での集合研修会を再開し、非常に充実した研修にすることができました。委員会メンバーと協議し、参加して良かったと思える研修会を企画していきたいと思えます。皆様、研修会でお会いしましょう！今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

	施設名	氏名
担当理事(副会長)	ケアポートすなやま	松田 由紀夫
担当理事	常盤園	佐野 英孝
A班委員長	アビラ大形	眞柄 彰人
委員（A班）	ケアポートすなやま	眞保 京太郎
	白根ヴィラガーデン	片桐 侑生貴
	千歳園	五十嵐 賢也
	女池南風苑	阿部 千賀子
	やまぼうし	水谷 麻美
	くわの実の郷	田中 友海

B班委員長 グリーンヒル与板 渡部 綾子

この度、今期、学術研修委員会B班（中越・上越地区）の委員長を務めさせていただくことになりました、グリーンヒル与板の渡部綾子と申します。

昨年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、ようやく当協会も会場に集まる形で研修会を実施することができました。今年度は、会場で集まる形式とともに、オンライン形式も取り入れる等工夫し、多くの会員施設の皆様から参加していただきたいと学術研修委員で検討を重ねているところです。

感染症や慢性的な人員不足でまだまだ大変な状況は続いておりますが、厳しい状況だからこそ、会員同士で学び、情報交換し、議論することが必要ではないかと思えます。今年は研修会で、多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

	施設名	氏名
担当理事(副会長)	ケアポートすなやま	松田 由紀夫
担当理事	常盤園	佐野 英孝
B班委員長	グリーンヒル与板	渡部 綾子
委員（B班）	国府の里	荻井 夏江
	高田の郷	松浦 祐美子
	てらどまり	金子 純也
	桃李園	穴澤 勝也
	米山爽風苑	大井 めぐみ
	楽山苑	水落 清吾

[広報委員会]

委員長 やすらぎ園 岡本 直樹

前期に続き広報委員長を仰せつかりました、やすらぎ園の岡本直樹と申します。広報委員の仲間入りをして10年目、委員長は4年目となります。未熟者ですが、当協会の広報活動について全力で責務を全うさせていただきます。よろしくお願いいたします。

さて新型コロナウイルス感染症が5類移行後も、社会の流れとは逆行するかのように様々な制限を継続せざるを得ない施設が多かったのではないのでしょうか？もちろん感染症の他、様々な社会問題を通し、時代と共に人々の価値観や社会の仕組みが変化する中で、私たち老健に対しても様々なものが求められています。

長谷川会長及び理事の先生、事務局、広報委員の皆様と協力し、地域に根付いた・身近な話題をタイムリーに届ける広報活動、多くの方より目を通していただける広報誌を目指して参ります!!

	施設名	氏名
担当理事(副会長)	やすらぎ園	荒川太郎
委員長	やすらぎ園	岡本直樹
委員	いいでの里	五十嵐武士
	越南苑	松井麻子
	ケアホーム三条	西山真理子
	ケアポートすなやま	田村敏 拡
	しんあい園	森山友香
	てらどまり	白井大湖
	松浜さくら園	坂上祐介
	やまぼうし	須貝 聡
	楽山苑	中嶋夏子



美味しい♪楽しい!大好き♡

豊浦愛広苑
介護福祉士 小日向 優子
介護福祉士 渡辺 翔太

豊浦愛広苑では、年に4回「おかずバイキング」「蕎麦打ち」「寿司バイキング」「おやつバイキング」の行事食を提供しています。蕎麦打ちでは厨房スタッフが目の前で打つところや、切るところを見学し、その後実際に利用者様にも体験してもらっています。

利用者様からは「初めはできるか心配だったが、実際やってみたら楽しかった」という声が聞かれました。



その他のバイキングでも「ごちそうが食べられて嬉しい」「お腹いっぱい好きな物が食べられるから大好き」と大好評です。普段食べられない食事の提供は利用者様にとって生活の楽しみとなっているため、今後も要望を聞きながら多職種で相談し、より満足できる行事食を提供していきたいです。



ボランティアの受入再開 ~待ちに待った慰問ボランティアさんが来苑されました~

中条愛広苑
支援相談員 高松 千恵

中条愛広苑は、新潟県の北部、胎内市にある施設です。胎内市は、かわいい水芭蕉の群生地、乙宝寺に代表される重要文化財を有し、冬の終わり頃から春にかけて県内でも、1、2位を争うほどの生産量を誇るチューリップが市内にあふれます。

コロナ禍により、施設での行事等も縮小し感染予防対策に努めてきましたが、ようやくボランティアの受け入れを再開



しました。

この度（2024年5月）、「中条カラオケ愛好会」の皆さんに来苑いただき、自慢の歌声を披露頂きました。懐かしい歌を聞き、ご利用者の皆さんと楽しい時間を過ごしました。

コロナ禍前の日常が少しずつ戻ってきました。これから色々な施設行事も再開していきたいと思っています。



季節を感じ、みんなで楽しむために

ぶんすい
言語聴覚士 駒形 梢

ぶんすいは、大河津分水の側にあり、水田に囲まれた長閑な場所にあります。

当施設では、毎月季節の行事を開催しています。新年会から始まり、花見に夏祭り、クリスマスとご利用者様はもちろん職員も共に楽しんでいます。デイケアの新年会では餅つきを行いました。「昔はみんな家をついたよね」と話しながら、順番に職員と杵を持ち、美味しいお餅を完成させました。お餅は窒息リスクの極めて高い食材です。事前に家族に許可を得る事はもちろん、ご利用者様の嚥下機能にあわせ、栄養士と言語聴覚士でお餅のサイズを調整し提供しました。また看護師は吸引器を用意して参加するなど他職種と協力して、ご利用者様みなさんに満足して頂く事が



できました。「リスクが高いからやらない」ではなく、どうしたら出来るのか他職種と考える事で、叶えられることもあると思います。

ガマン我慢のコロナ禍がようやく終わり、世間ではアフターコロナをうたっていますが、高齢者施設ではご利用者様の安全と安心の為にも完全に制限をなくすことはまだ難しいのが現状です。ただそんな中でも「ご利用者様の為に何かしたい、笑顔で過ごして頂きたい」という思いを持ち、他職種と連携する事で実現できるように取り組んでいきたいと思っています。



選択活動で目標達成!

保倉の里
通所支援相談員 武田 翼

保倉の里通所リハビリでは、ご利用者様の主体性を重視し、自己選択型サービス（「選択活動」）を導入しています。多様な活動メニューを週替わりで用意し、その中から、ご利用者様自ら利用日のプログラムを組み立ていただいています。

メニューには「上肢又は下肢の運動」「ボール運動」「平行棒運動」「脳トレ」「手芸」「工作」「園芸」などを用意し、ご利用者様が選択する際には、興味や目標達成に連動するメニューを選択いただきますが、偏りがないう、適宜職員もサポートしています。

選択活動の導入により、プログラムの恒常化が解消され、ご利用者様のリハビリ意欲が向上しました。

ご利用者様の在宅生活を支援できるよう、今後も様々な活動メニューを取り入れ、楽しさと活気のあるサービスを提供してまいります。



お父さん・お母さん ありがとう

楽山苑
支援相談員 中嶋 夏子



楽山苑は長岡市の西部（旧三島町）に位置し、自然豊かな環境にあります。入所定員が96人、通所リハビリテーション定員が4人の施設です。

今年の春には父の日・母の日をお祝いする行事を行いました。「お父さん・お母さんありがとう」と書かれたうちわを配り、職員より感謝の言葉を伝えました。また手作りの花の箸置きにもメッセージを添えました。レクリエーションは、2チームに分かれて、大玉送りを行いました。いつもよりも大がかりなレクリエーションにご利用者様の目は輝き、笑い声があふれ大変盛り上がりました。力強くボールを送り出す姿が印象的でした。

この日のデザートはムースケーキのたっぷり生クリーム添えです。飲み物は炭酸飲料を用意しました。普段は炭酸が入った飲み物を提供することはないのですが、飲み物で特別な日を演出しました。また初めての試みとして、炭酸飲料にとろみをつけました。炭酸が消えないよう、直前にとろみを付けてお渡ししました。久しぶりに飲んだシュワシュワとした炭酸入りの飲み物も喜んでいただけたようです。

今後にご利用者様の笑顔あふれる行事を行っていききたいと思います。



みどり工房で繋がる・広がる輪

グリーンヒル与板
作業療法士 川崎 実佳



グリーンヒル与板は長岡市与板町の自然豊かな小高い丘の上に建っています。施設から見える景色は長岡の山々や田んぼを一望でき、季節の移り変わりを感ずることが出来ます。

当施設ではご利用者が得意なことや好きなことを行い、豊かな生活を送れるよう、『みどり工房』という裁縫のグループ活動を行っています。最初は「久しぶりだし、できるかな」と不安そうな方も、次第に「昔は着物も全部縫っていたのよ」と慣れた手つきで次々と作品を作り上げてくださっています。作品を作るだけでなく、自然と会話も弾み、笑顔溢れる活動の場になっています。

また、みどり工房ではでき上がった作品を施設玄関で販売しています。来所されたご家族やご利用者、地域の方、職員が購入し、身につけたり、使ったりしている様子がみれることも一つの張り合いになっています。皆様が次の作品を楽しみに、生地を寄付されたり、お孫様・ご友人への贈り物にされたりと、様々なかたちで活動に携わってくださっています。

みどり工房は今年6年目になります。今後はよりご利用者が主体的に運営していけるような活動に、そして施設内だけでなく地域の皆様と繋がる活動を目指していきます。



毎月の楽しみ！お誕生会！！

松浜さくら園
介護士 斎藤 将真

当園では、毎月のレク担当が割り振られており、誕生会の企画・運営を行っています。季節に応じた内容が主になりがちですがスタッフの個性がきらりと光る趣向を凝らした誕生会も行われています。そこで今回は一般棟で開催した4月の誕生会の様子をお伝えしたいと思います。

内容はズバリ仮装歌謡ショーです！入所者様方の青春を彩った昭和のスター、アイドルに扮したスタッフがそれぞれの歌や踊りでおおいに盛り上げてくれました！

なかにはあまりの変身ぶりにスタッフだと気づかず握手や記念撮影を求める大興奮の方もいらっしゃいました。終了後は「また楽しみにしてる！」「やっぱりあなたが歌ってくれると思ってた！」などなど、嬉しい感想もいただきスタッフもやりがいを感じることができた誕生会となりました。



季節を感じてもらおう行事を

みずき苑
介護福祉士 長谷川 大規

新型コロナウイルスの流行もあり、外出や面会制限、行事内容の縮小化などを余儀なくされました。そのような中でみずき苑では、少しでも季節を感じてもらい、日常とは違う雰囲気味わってもらおう事を目標に行事を企画しています。

鬼に扮した職員めがけ、満面の笑みで速い球を投げるゲスト、「鬼は外！福は内！」と威勢の良い掛け声と笑い溢れる節分。玄関前の満開の桜を見る花見散歩。普段あまり話さず表情の変化も少ないゲストが「きれいだね。満開だね」と笑顔で話されました。

祭りのにぎやかさ、日常とは違う雰囲気の中、ゲスト・職員・フロア全体が笑顔と笑い声で盛り上がる夏祭り。長寿の方を祝う敬老会。シャンメリーを開ける音に驚き、ケーキに舌鼓を打つクリスマス会。みずき苑バンドによる生ライブ等の活動を行っています。

また、行事食を用意し、いつもとは違うお弁当形式の食事や、バイキング形式の食事・おやつを提供しています。てんぷらやお寿司バイキングの時はおかわりの声や挙手が止まりません。まだまだ制限が続く中、少しでもゲストの皆様がいつもと違う楽しい時間を過ごしてもらい、笑顔や良い表情、良い気持ちになってもらえるよう様々な行事を企画していきたいと思っています。



豊浦愛広苑

豊浦愛広苑認知棟では、出来る部分を分担し、季節の壁飾りを利用者様と作成しています。みんなで作品を毎月仕上げ、貼り出す瞬間は「右が高い！」等貼り方もアドバイスし注目してくれています。



中条愛広苑

通所のご利用者様と一緒に壁飾りを作成しました。虹は折り紙で7色作り、アジサイはコーヒーフィルターを絵の具で染め、ビーズを雨に見立てました。また、今が旬の大谷翔平を「てるてる坊主」で表現し、通る皆様興味深く見られています。



ぶんすい



今年の干支は「辰」という事で、段ボールとお花紙で作りました。「こんな丸めて何が出来るんだあ？」と口にしながらか手を止めることなく作業してくださいました。作品をみて「ちゃんと辰になったねー！」と、その一言でひと安心です。「さて、来年は何年でしょうか？」何をどんな風に作るか楽しみです♪

保倉の里

ご利用様がリハビリ(作業療法)で作成した作品を地域の文化祭に出展しています。来場された方々から「手先が器用!」「90歳でもできるのですね!」と驚きと感心の声を頂いています。



楽山苑

中越地震復興のシンボル「フェニックス」を貼り絵で表現しました。フェニックスの身体はご利用者様に紙を小さく丸めて頂いたものを貼って頂きました。背景も小さく切った紙を貼ってあります。背景とフェニックスの素材を変えることで主役のフェニックスが際立つような作品が出来ました。



グリーンヒル与板

通所リハビリご利用者の共同作品です。模造紙いっぱい季節にちなんだ貼り絵を作成しております。布の質感や模様を活かした配色の豊かさ、リアリティさ、迫力に見た方は感嘆し、魅了されております。次はどんな作品ができるのか楽しみです。



松浜さくら園

文化祭出展作品です。毎日コツコツと創作活動に取り組み、細部まで丁寧に創作されています。賞をもらい皆様喜ばれていました。極力ご自身で行って頂ける様な支援を心がけています。



みずき苑

季節に合わせて壁飾りを共同制作しています。梅雨に向けてお花紙をあじさいの花びらに見立てて、色合いを工夫しながら貼っていきました。春に制作した、いちご等と合わせて掲示したところ色鮮やかな作品となりました。



編集後記

皆様のご協力により、「老健にいがた」第55号を無事に発刊することができました。原稿依頼に際し、快くご承諾いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

今年度は医療・介護・障害福祉の報酬が同時に改定となるトリプル改定となりました。介護分野においては団塊の世代が2025年にすべて75歳以上となり日本の超高齢化社会がさらに進む「2025年問題」を目前とし、医療や介護のニーズは高まり改定もそれらに応じたものへと変わってきています。社会が求める介護ニーズの一つを担う老健として私達広報委員会も役に立つ情報を発信していけるように努めていきたいと思っております。(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌 「老健にいがた」第55号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会
〒959-4626 新潟県東蒲原郡阿賀町あが野南4324-2
介護老人保健施設 三川しんあい園内
TEL (0254) 99-5111
FAX (0254) 99-5121
URL <http://niigata-rouken.org/>
印刷 有限会社フジプリント